

参加団体・参加者	参加者発言内容	知事発言内容	参加者の発言に対する県の考え方	担当課
上田子どもサポートセンター青年部	○若者のサポートについて			
山城 峻一様 他2名 (上田市)	<p>1 次世代サポート課について</p> <p>・知事が次世代サポート課を立ち上げたことは、すごく期待するところであるが、過去に問題があったり、現在問題がある若者・子どものニーズを、これからどうやって吸い上げていくのか、関係課の方もいるので聞きたい。</p>	<p>・県には、いろんな政策があるが県民と行政が向き合いになっているが、本当は、同じ方向を向いて進んでいける県にしていきたい。</p> <p>・不登校とか引きこもりは、行政だけでは解決できる部分は限界があり、行政が何かしたからといってすぐ変わるものではない。社会のいろんな主体が同じ方向を向いていかないとなかなか変わらない。</p> <p>・とりあえず、「子どもサポート」とか「子どもの権利条例」も検討していこうと思っている。行政も知事も一人の当事者として一緒に考えていきたい。</p>	<p>・県内の子ども・若者支援団体調査を実施するとともに、市町村・不登校やニート・引きこもり等の問題を抱えている子ども・若者の支援をしているNPO等の支援団体の方達の現場の声を聞き連携を図ってまいります。</p>	次世代サポート課
	<p>2 学習障害、発達障害への対応について</p> <p>・学習障害とか発達障害とかを病気と捉えるのではなく、困っていると考え。この困り感を抱えている仲間や子どもが多いが、その困り感をどう解消するか、どう支えていくか。</p>	<p>・困り感是人それぞれ違うが、それを理解できるかどうか、スタート地点が大事だと思う。そういうところを当事者の方達の声を聴いて考えていかなくてはと思っています。(次世代サポート課長)</p>	<p>・1の回答と同じです。</p> <p>・本人や家族の困り感にまわりの関係者がどう気づくかが重要なポイントとなります。県では、保健師、保育士、教師等の関係者を対象に発達障害に関する専門的な研修会を開催し、乳幼児健診・相談、保育所・学校等における早期の気づきを図っています。</p> <p>・困り感をもった本人や家族に対して市町村が療育指導等に当たっており、県でも市町村と連携して、発達障害者支援センターや保健福祉事務所による相談・指導を行うとともに、圏域に設置している療育コーディネーターが地域との関係者と協力して本人・家族を支援しています。また、こうした市町村の取組を促進するため、療育コーディネーターによる助言や事例検討会などを行っています。</p> <p>・本人・家族の困り感を解消するためには、乳幼児期から就学までの幅広いライフステージにわたって、保健・医療・福祉・教育・就労等のさまざまな分野が連携して支援に当たる他、日常的な生活の中で接することが多い一般県民の理解を高める必要があります。こういった身近なサポーターを増やすことを目的とした「発達障害サポーター養成事業」をH24年度から実施する中でご意見の趣旨が反映されるように努めます。</p>	次世代サポート課
	<p>3 引きこもり対策について</p> <p>・行政に提案したいのは、各地域に引きこもり等に対するサポートチームを作ったらどうかと思う。精神科医とか社会福祉、精神保健福祉の方等とかでサポートチームを作っていただき、各家庭を訪問して本人・家族の声を汲み取っていただき、当事者、家族等との間で自立を目指したプランを作り長期間継続していったら欲しい。</p>	<p>・ひとりでも多くの方が自己肯定感をもって暮らせる社会にしなければいけないと思う。本人が早くなんとかしなければいけないなどという脅迫観念にかられるのではなく、もう少し周りからも受け入れられて、自分の生きかたを肯定できる社会にするためには何が必要なのか。</p>	<p>・ひきこもりに関する相談については、精神保健福祉センター内に設置したひきこもり支援センターや保健福祉事務所、市町村において随時実施しており、現在でも相談されるご家族やご本人の声を聞きながら、その内容によって医療機関、教育機関など必要な部署と連携して家庭訪問等の支援を行っています。</p> <p>・また、相談機関を訪れる以前の段階の本人やご家族が県内の相談機関の窓口に関する情報が把握できるように、ひきこもり支援センター（精神保健福祉センター内に設置）において、本人や家族向けのリーフレットの配布やホームページのコンテンツ充実させるなどの対応において、ご意見の趣旨が反映されるよう努めます。</p>	健康長寿課